

先生と生徒のための

# Fun with

# ENGLISH

# in 新潟

# Vol.2

言語活動を通して  
学びを連携させる

目次

巻頭言

校種を超えた言語活動のつながり  
～連携の、その先にあるもの～

上越教育大学 阿部 雅也

中高  
連携

中学校のその先を見据えて

新潟市立首野木中学校 小田 久美子

教室にもっと豊かな言語活動を

新潟市立下山中学校 山崎 寛己

生徒の発信を活かした英語授業を目指して

新潟市立万代高等学校 根立 望

「一期一会」の英語

～高校生へのアンケートとそこからみえる

“English for communication”への期待～

新潟県立新潟高等学校 小林 直人



知が啓く。

啓林館

# 校種を超えた言語活動のつながり

～連携の、その先にあるもの～



上越教育大学 学校教員養成・研修高度化センター 阿部 雅也

## 小学校英語にかかわるようになったきっかけ

「厳しく指導すればするほど、心の距離が離れていく…」新潟県公立高校教員としてスタートし、2校目のある日。英語を苦手とする生徒への指導に悩みながら、書店で何気なく手に取ったのが、当時富山県で中学校の教頭先生をされていた中嶋洋一先生（元関西外国語大学教授）のご著書『英語好きにする授業マネジメント30の技』でした。中学校の実践ながら、高校現場での私の悩みに答えてくれる言語活動のヒントが満載です。実践の裏にある原理を読み取って目の前の生徒に合わせてみると、みるみる英語好きが増えていくのが分かりました。それもそのはず、私が手を焼いていたのは、中学校段階で英語に苦手意識を持った生徒たちだったのです。一人ひとりのつまづきを理解して初めて、高校での指導が成り立ちます。それ以来、私の「個人的中高連携」が始まり、多くの中学校籍の実践家の先生から学ばせていただきました。

中高連携の重要性はここであえて言うまでもありません。しかし文部科学省による調査（2023）によると、小中では連携が進んでいるものの、中高では残念ながらまだまだこれからというのが現状です（図1）。

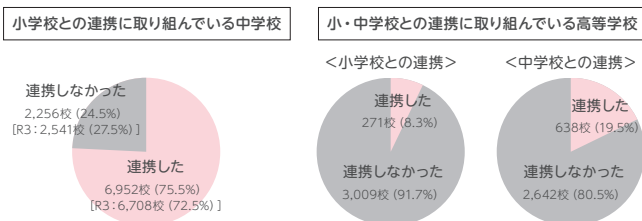


図1 小中高連携の状況（R4 英語教育実施状況調査より）

## 小中の研修文化に高が学ぶ「村上ハブスクール」連携

新潟県立教育センター指導主事時代に、小中高連携「村上ハブスクール」事業に企画立案から関わらせていただきました。英語力だけでなく、児童生徒の自信や地域への愛着、誇りを育むことを目的に、

地域の小中高の先生方が普段の授業をお互いに見せ合って、研究協議と授業改善を繰り返しました。

ちょうど全国的に小学校外国語活動がスタートするところでしたので、中高の先生方は小学校の授業作りを支援するつもりで参観に行きました。研究授業では、“Hope Soap”というアフリカ貧民街支援の石鹸に関する「本物」の映像が流され、教師の問いかけで心を揺さぶられた子どもたちは身振り手振りも交えながら意見交換していました。支援するつもりだった中高の先生方でしたが、小学校の授業作りの緻密さに驚かされます。研究協議でも小学校の先生の発言は視点が鋭く、特に高校の先生は、子どもの発言をつぶさに見取る小学校の先生の観察眼に舌を巻いている様子でした。小中では研究主任主導の校内研修で研究授業と協議を日常的に繰り返しており、高校ではそのような文化がなかったことも大きかったでしょう。

## 地域素材（本物）による言語活動が育む自信や愛着

村上ハブスクールでの2つ目の気づきは、地域素材（本物）に関する言語活動が、児童生徒の自信や地域への愛着、誇りを育てるということです。例えば、小学生が村上茶や鮭などの地域素材を調べ学習して村上かるた（図2）を描き、中高生がそれに英文を添えました。そういった地域特有の素材に関する表現を集めて発表練習を積み重ねたところで、県内留学生やALTを招いて「村上でおもてなし」という行事を行いました。小グループに分かれた小中高生が、県内留学生とかるた遊びを楽しんだり、町の中を英語で説明しながら案内して回ったりする交流イベントで、その後の学習意欲が向上しました。また、外国人観光客に村上の魅力を理解してもらえるように、ストリートマップ（図2）を英語で作成しました。自作のマップが観光案内所に置かれて実際に

使われるのを見て、児童生徒に自信や地域愛が育たないはずがありません。

このような「本物」を通じた一連の言語活動を蓄積し、地域素材でどのような力を育てたいか、各校種での到達目標を設定し、そこから逆算した小中高の「むらかみ CAN-DO リスト」を作成しました。地域で顔の見える連携会議を繰り返し、授業改善を継続した結果「英語が好き」の回答や英検受験率が10%以上向上しました。教師集団が明確な目的（何のために）を共有すれば、校種や個々の教員でやり方（登山道）は違えども、共通のゴール（山頂）にたどり着けることが分かりました。

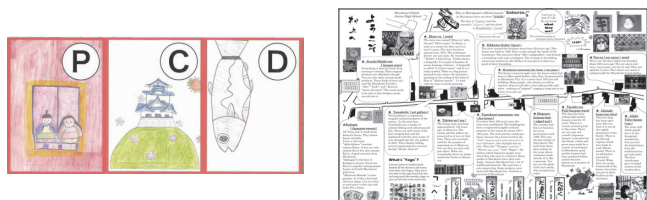


図2 小中高の児童生徒による村上かるたとストリートマップ

### 言語活動の設定でつながり学び合う真の中高連携

中高連携といったとき、語彙や文法事項などの言語材料を思い浮かべる方も多いかもかもしれません。実際、中学校の教科書には言語材料が高校から降りてきて、膨大な新出単語や文法事項を扱わなくてはならないと嘆いている先生もおられます。我々教師の側も、扱わなければならない英語の量に圧倒されがちです。ただ、本来英語は「ことば」であることを考えると、生徒にとってはコンテンツを楽しみ「たい」が英語学習の出発点になるはずで、知り「たい」、伝え「たい」と思わせるような言語活動中の目的・場面・状況の設定。そのような工夫や、活動中の生徒集団の動かし方は、中学校の先生に学べるところが大きいでしょう。

一方、高校では豊かな語彙やまとまりのある論理

的な文章をうまく導入展開し「読めた」と感じさせる方法をご存知の先生が多いようです。そういったティーチング・スキルを中高で学び合うこと、言語活動の設定を通じて我々英語教師が校種を超えてつながることが、真の連携に結びつくはずで、なだらかで一貫した言語活動を中高で設定（カリキュラム・マネジメント）することで、生徒たちは自分の考えや気持ちなどを伝え合う言語活動を楽しみ、英語表現を体験的に獲得し、己の成長を実感して、自律的に学んでいくはずで。

### 連携の先にある対等な関わり・つながり・思いやり

先に述べた「村上ハブスクール」成功の秘訣は、顔の見える地域でのつながりでした。ある時、授業改善が進んでいると思われる複数の高校の学年担当英語チームにインタビュー調査を行ったところ、それらのチームに共通していたのは、自由度と対等な関係性でした。日常的なミーティングで上下関係はなく、原案にだれもが遠慮なく意見しているようです。リーダーが目標を示すなどリーダーシップを発揮しつつも、時には弱さを見せて頼ることもあるようでした。また、オープンで気軽な授業の見せ合いや、授業者を傷つけない前向きな授業研究をしていることも明らかになりました。1コマ丸々でなくとも、授業の最後の10分間、生徒のアウトプットだけでも少しずつ見せ合うことが有効のようです。クラウド上で言語活動や評価の実践をシェアする取り組みも広がりつつあります。

この冊子でも中高連携のきっかけになりそうな具体事例を数多く紹介しています。与えたものは必ず自分に返る。同僚や、地域の異校種の先生との実践シェアのきっかけ作りにこの冊子をご利用いただければ、編集チームとしても大変うれしく思います。

引用文献 文部科学省 (2023) 「令和4年度『英語教育実施状況調査』概要」

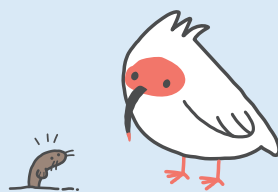


#### ◆ Profile

#### 阿部 雅也

新潟市生まれ。新潟県公立高校・教育委員会等に20年間勤務後、大学に籍を移し、英語教授法や教員研修プログラムの開発・支援に携わる。新潟県立教育センターで村上ハブスクールを立ち上げ、小中高連携による英語授業改善を推進。

# 中学校のその先を見据えて



新潟市立曾野木中学校 小田 久美子

小学校と中学校の連携事業は、多かれ少なかれどの校区でも行われています。ところが、中学校と高校、となるとどうでしょう。中学校3年間のその先は、一体どういう学びにつながっていて、中学校の段階で必要とされている力は一体どんな力なののでしょうか。中高双方の立場から見た課題を通して、授業づくりについて一緒に考えてみませんか。

## 高校1年生のつまずき

ある研修会で、高校の先生が高校1年生の英語力の低さについて嘆いていました。私はずっと中学校の立場で生徒たちを見ていますし、中学校の先生方の真剣な姿勢もよく分かります。その半面、生徒たちのつまずきは事実であり、高校の学びについて、中学校がもっとしっかり理解する必要があるのではないかと思いました。

### 「とにかく書けない」から脱したい

機会があって、校区内の高校の先生から中学校の授業を参観いただき、直接話をする場を設けることができました。以下はそこで出た高校1年生のつまずきです。

- ・単語や文が書けない。
- ・文法が混乱している。
- ・文構造の理解がない



「とにかく書けない」のです。中学校の言語活動やパフォーマンステストの様子も見させていただきました。「このミスはいつ修正されるのですか」との率直な質問に、中学校の指導の中で、話す活動や書く活動はしているが、ミスが修正できないまま高校へ送り出しているのではないかと責任の大きさを感じました。間違いを恐れず話すことができる良さを活かしつつ、より良い表現、より適切な表現があればそれを身に付けていくのが理想です。中学校段階で私たちが生徒のつまずきや課題をよく理解し、指導に活かすことができれば、それが生徒の次のステップにつながるはずです。

## 中学校の課題は

中学校の言語活動を中心とした授業スタイルは決して間違っていないと思います。ただ、一つの文法項目に特化して活動を仕組んでしまうと、目的・場面・状況を意識した「思考力・判断力・表現力」の育成に届かないのではないかと思います。状況や目的に応じた表現を生徒が自ら選択して使っていく場面を、繰り返し、意図的に仕組む必要があるのではないのでしょうか。

### 「話すこと」と「書くこと」を一体的に

言語活動を中心とした授業構成の中で、文法の力やまとまりのある文章を書く力を身に付けさせたい。「話すこと」ができれば「書くこと」もできるはずです。そこで「話すこと」については文法項目を制限せず、自分ごととして自由に表現させるようにしました。「話すこと」「書くこと」のテーマのヒントとしたのは、英語検定の3級～準2級の英作文問題と面接テストの問題です。以下、中学3年生の実践です(図1)。

- 1 日本や自分の住む町のお勧めの場所
- 2 中学校生活の思い出・学校生活
- 3 将来やりたいこと・卒業後にやりたいこと
- 4 日本文化紹介
- 5 二者択一
- 6 意見を述べる・メールに返信

テーマに沿って  
「話す」ことから  
「書く」ことへ



<b>Theme 1</b> 日本や自分の住む町のお勧めの場所【その1】 My friend will come to Japan this spring. Where is the best place to visit in Japan?	<b>Theme 3</b> 将来やりたいこと・卒業後にやりたいこと【その2】 What would you like to do in high school?	<b>Theme 4</b> 日本文化紹介【その3】 I want to give some Japanese presents to my friends. What present do you recommend?
---	---	--

図1 言語活動のテーマと中学3年生の実践

### 目的・場面・状況の意識

次に示す図は、過去の新潟県の高校入試問題です。1回目のペアとの対話で“Let’s go to the library by bike, Bob. I like riding a bike.”と発話していた

生徒が、友達の発話から問題文の状況に気付きます。「晴れた日だから自転車だね。ボブの健康にもいいかも」「バスの方が楽だよ。紅葉きれい。紅葉って何て言えばいいの？」など、伝えたい思いが広がります。すると別のペアでは、“I will go by bike because it is good for our health. It is sunny today. We can enjoy seeing beautiful trees.”のような発話が出てきます。

★あなたの家に、イギリスからの留学生ボブがホームステイしています。あなたは、秋の晴れた日に図書館にボブと一緒に行くことにしました。自転車かバスのいずれかで行こうと思います。あなたはどちらの交通手段を選び、その理由をどのように説明しますか。

Let's go to the library  
by (            ), Bob.  
理由は4行以内。



図2 平成31年度新潟県公立高校入試より

「だれに?何のために?何を?」伝えるのかという状況に意識が向くと、生徒の表現が一気に広がります。

### 「困り感」を大切に

生徒の授業内でのつまづきや困り感は学びに向かう大きな一歩です。授業では、生徒の困り感を大切に、最初から多くの手助けはしません。困り感や他の生徒のつぶやきから、生徒たちは良いアイデアを拾ったり、周りの発話から学んだり、自分で調べたりして、表現の幅をどんどん広げるからです。

### 評価の観点とゴールは最初に

中学3年生の実践では「話すこと」「書くこと」の評価は①内容 ②言語③表現の3点にしました。「話すこと」のゴールは、ALTと会話をして自分の意見を述べることで、「書くこと」は、定期テストでまとまりのある内容で自分の意見を書くことです。最初にゴールを生徒と共有することで、生徒は目標をもって取り組みます。ゴールに少しでも近づくために真剣に学習します。良い表現は振り返りシートにメモするなど、工夫しながら蓄積していきます。



#### ◆ Profile

#### 小田 久美子

新潟県新発田市生まれ。新潟大学教育学部卒業後、新潟県内で公立中学校の教員として勤務。2018年から5年間、新潟市中学校教育研究会英語部の部長を務める。新潟市マイスター。現任校には2023年度から教頭として勤務。

### 話したことを書いてみる

週1時間ライティングの日を作り、継続して行きます。内容はその週の授業で話したテーマの中から選び、テーマに沿ってまとまりのある内容を書きます。時間は10分から15分程度です。最初は1行、2行程度しか書けなかった生徒も数か月継続することで、時間内で5行の目標は簡単にクリアするようになります。

### 「まとまりのある内容」で自分の意見を伝える

3年生の定期テストです。「海外からの留学生が日本語をまだよく分からず困っている」状況で、留学生の“What should I do to improve my Japanese?”の投げかけに対して、生徒がアドバイスをします。

I think you should make Japanese friends. You can talk about Japanese culture, food or music in Japanese. Also, you can watch Japanese anime on TV. Watching anime will help you understand Japanese. I hope you will enjoy your life in Japan.

生徒は、内容と表現、伝える相手に意識を置きながら、自分の思いを英語で表現するようになりました。

同様に「話すこと」でも、ALTと一つのテーマについて自由に話します。型にはめすぎないことで表現力はぐんと伸びていきました。



### おわりに

中学生が高校生になったら、もっともっとたくさんの素敵な表現に出会えます。英語を学ぶ楽しさが、中学校のその先もずっと続いていきますように。そんな思いでこれからも英語に触れていきたいですね。



## 新潟市立下山中学校 山崎 寛己

英語の授業を行う上で、言語活動が大切であることはどの教師も分かっているはずですが、現行学習指導要領において扱う語彙数、文法事項が増加し「教科書をこなすだけで精一杯だ」と感じている先生も少なくないと思います。本稿では、中学校や高等学校の普通の授業で取り組む活動を豊かな言語活動にするための工夫を考えたいと思います。

## 言語活動ってなに？

文部科学省(2017)によると、言語活動は「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う活動」を意味するとされています。クイズを出題したり、文法の練習で空欄を埋めたりすることは練習活動と位置付けられ、区別されるようになりました。

練習は大事ですが、それで終わりにせず、その先で考えや気持ちを伝え合う活動をすることで、生徒たちの動機付けを高め、達成感を味わわせたいものです。Larsen-Freeman (2003) は文法の指導において、Form (形式)-Meaning (意味)-Use (使用) の3つの要素が重要であることを主張しています(図1)。

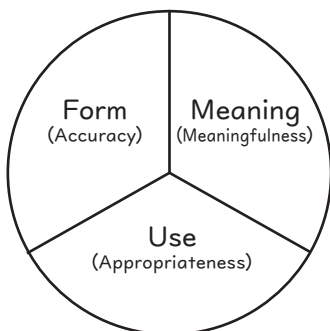


図1. 文法項目の指導における3要素

自分がしてきた過去の授業や、高校時代に受けた授業は Use の要素が少なく、Form や Meaning にはばかり重きが置かれていたと思います。ベネッセ教育総合研究所(2021)によると、言語活動を多く経験した生徒の方が、英語学習および英語使用への意欲が高いことも報告されています。ここでは少しの工夫でできる、より意味のある Use を意識した3つの活動をご紹介します。

## ① 帯活動の工夫：スピーチからペアでの会話活動へ

教科書のタスクなどでスピーチに取り組むとします。よくある展開は、発表者によるスピーチ→フロア

からの質問という流れではないでしょうか。発表したままで終わらず双方向のやりとりができる点は良いですが、多くの生徒は聞いているだけで終わってしまいます。そこで提案したいことは、スピーチや質疑応答が終わった後、短い時間で十分なので発表者の内容に関するテーマでペアやグループによる会話活動を行う工夫です。筆者が中学校2年生で取り組んだ例をご紹介します。

1. 司会が発表者を紹介し、発表者はスピーチをおこないます。(テーマ：将来行きたい国は?)



I want to visit Australia someday because...

2. 質疑応答の後、司会が即興でペアトークに関する質問を考え、ペアで会話活動を始めます。



Yuzuki-san talked about her favorite county. So today's pair talk topic is "Which country do you want to visit in the future?" Let's start.

3. 生徒たちは1分程度、会話をおこないます。



I want to go to Spain. Because Spanish soccer team is very strong. I want to watch the game there. How about you? ※英文は全て<原文ママ>

②教科書<対話文>の工夫:スキット(劇)作成へ

中学校の教科書には、対話文が多く掲載されています。皆さんはどのように扱っていますか。長文読解用のページに比べ、短いものが多いため、会話の続きを考えたり、校内を巨大な舞台にしてペアでスキットを演じたりするのがオススメです。基本的な手順は以下の通りです。

- (1) 新出単語の確認, 教科書の内容確認をする
- (2) 音読練習をする
- (3) ペアでアレンジする内容を相談し, 練習する
- (4) 校内のどこかで撮影をする(ICT端末を使用)

「宿題は終わったかい?」「週末に英語落語を観に行かないか」と誘っている本文を援用して、生徒たちで思い思いのスキットを作成しました。どの生徒もワクワクしながら取り組みました。以下は生徒作品です(撮影当時は2月)。



A: Have you finished your homework yet?  
 B: I've just finished!  
 A: Why are you studying here? By the way, I have two tickets for a ski resort. Why don't you come with me?  
 B: Sure. I'd love to. I'm good at skiing.  
 A: Thank you. I am very happy. I can't ski though.

③教科書<文法練習>の工夫:ギャップを生かす活動へ

学習した文法事項を用いて、練習問題を作成したり、教科書にあるタスクに取り組んだりする際にも、少しアレンジを加えるだけで生徒が生き生きと取り組

む言語活動になります。中学校2年生でTo不定詞を学習した際の教科書の練習用タスクに次のようなものがありました。

What are some important habits to stay healthy?

このままだと、ありきたりな意見だけで終わってしまうと思ったので、to 以下を次のように変えてペアワークをおこないました。

What are some important habits to stay **mentally** healthy for you?

こうすることで、自分なりのストレス解消法を一人一人が思い出し、ペアや教室全体で交流し、大いに盛り上がる活動になりました。次に示すのはある生徒の作品です。

Talking to my cat is important. My cat always listens to my story. I often feel refreshed after that. She lets me touch her "nikukyu (pad)".

英語学習が楽しく、力のつく教室にするために

3つの活動例をご紹介しましたが、共通点は生徒の目線で Use につながる活動を考えたことです。生徒の生活背景を想像し、生徒目線で授業内の活動を見直すと、そこには豊かな言語活動につながるヒントがあふれているはずです。中学校はもちろん、高校でも活用できるのではないのでしょうか。

引用文献

Larsen-Freeman, D. (2003). Teaching from Grammar to Gramming. Boston: Heinle Cengage Learning.

文部科学省 (2017). 『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』

ベネッセ教育総合研究所 (2021). 「英語を使いたい、学びたいという意欲を高める英語教育とは～小6時から高3時まで7年間追った『英語学習に関する継続調査』をもとに考える～」



★ Profile

山崎 寛己

1987年新潟市生まれ。上越教育大学卒業、同大学院修了後、大阪府公立小中学校を経て現職。中学校検定教科書『BLUE SKY』（啓林館）編集委員。共著『中学校英語サポートBOOKS 話せる！書ける！英語言語活動アイデア&ワーク66』（明治図書）など。2023年度に月刊誌『英語教育』（大修館書店）にて「チーム中学高校英語PRESENTS サステナブルな授業磨き」を連載。アマチュアサウナー。

# 生徒の発信を活かした英語授業を 目指して



新潟市立万代高等学校 根立 望

本校の教職員の構成は「中高ハイブリッド型」。英語科教員の半分は、中学校での指導経験があります。中学校での指導経験がある同僚との会話は、参考になることがたくさんあります。本稿では、同僚とのやり取りと私の試み、そして生徒の英語学習への姿勢から教わったことについてお伝えします。

## MIND THE GAP 中学校と高校では何が違うの？

中学校で長く指導された経験のある同僚に、中学校と高校での英語授業についてどのような違いがあるのか聞いてみました。「語彙の量が格段に増える。語彙指導について思うことは、中学生は教材や授業で習った単語が全て。時には『だって習ってないし』と言い逃れもできる。しかし、高校生は語彙をどんどん自分で増やすことが望ましいとされる」とのこと。「確かにそうだ!」と思いました。多くの高校では、語彙の増強を目的にして、単語帳を持たせ、学習のペース作りと称して単語テストを計画的に授業で実施しています。また、コミュニケーション英語の考査では、教科書以外の本文を用いた初見問題が出題されています。

文法指導についてはどうでしょう。次の英文を読んでもください。中学校英語の既習事項として扱われている文法を含む英文はどちらでしょうか。

### 中学校の既習英文法クイズ

1. If it were sunny, I could go swimming.
2. He was standing by the wall, looking at me.

正解は1です。「仮定法過去」は中学校で習いますが「分詞構文」は高校入学後に学びます。高校入学前までに何を学んでいるかを知っていることは、高校英語へのソフトランディングとして大事です。高校では、中学校の教科書に目を通してから、授業計画を立てるようにしたいものです。そしてもっと大事なことは、目の前の生徒がどこまで分かっているのかを知ることでしょう。文科省のHPには、中学校での既習事項を復習できる教材があります。勤務する高校で学ぶ生徒たちが「何をどこまで理解しているのか」を知るために利用されてはいかがでしょう。ちな

みに「仮定法過去」を学んだ中学生は、条件を表したいときもIfと動詞の過去形を一緒に使うエラーをしがちということも教わり、高校での指導ポイントのヒントとなりました。

## 中学英語から高校英語への橋渡し役は言語活動

「中学校でも高校でも、言語活動の機会をきちんと担保することが大事」別の同僚との会話で印象に残る言葉です。英語は情報や考えをやり取りする言葉です。新出単語や文構造の知識は、生徒の体験や感情、使用場面と合わせて理解できたときに言葉となります。知識だけでは、英語は言語でなく記号に過ぎず、苦手な生徒には、毎日ある英語授業は楽しいはずがありません。リテリングや意見交換の活動で伝わる楽しさを体験できる機会を担保することにより、生徒に自分の英語力をアップデートする感覚が芽生え、自学に目的が生まれます。英語で話した後は、言えなかったことを調べるなどして言えるようにさせ、それを書かせて提出させます。間違いは教員がすべて添削するのではなく、ペアで相談したり、ヒントを与えることにより気付きを促したりします。また、音声をデータで提出させると、生徒は正しい発音を意識するので、授業中の音読の声が大きくなります。発音は意識させたいポイントを絞り、授業中に練習させます。

## 既存の知識と発想をつなぐ言語活動

高校英語では、語彙・文法・社会的な事柄への知識や関心を高めるために、生徒が既に知っていることやできていることに新しい語彙や表現、スキルをプラスすることを心掛けます。語彙習得では“Can you say this word in different ways?”と教科書にある英語を既に知っている単語や表現で言い換える



活動を取り入れます。文法で「推量の助動詞」を扱うのであれば“*He must/might be...*”を示して、登場人物や社会的背景を推測させます。1つの單元にある項目のすべてを網羅するのではなく、汎用性の高い単語や慣用表現、文法を扱うことがポイントです。日常的に繰り返し取り組むことで、生徒は次第に慣れてきます。生徒ができるようになるには、慣れるまでの時間がたっぷり必要だと考えることです。

英文解釈は、吹き出しを作って台詞を考えたり、読み取れる状況をイラストで描き表し、英語で説明しながらファクトを確認したりすると True or False Question よりも楽しいです。なぜ楽しいのでしょうか。それは、イラストや表現にさまざまな違いが生まれるからです。読んだ内容について立ち止まり、生徒自身の体験と結びつけるような意見を求めるとオープンクエスチョンになります。例えば「岡本太郎がピカソの影響を受けた」という話を読んだら“*Is there anyone who inspired you?*”と生徒に尋ねます。“*For me, I was inspired ...*”と自分のことを英語で添えれば、生徒は答えやすくなります。単語が難しく生徒が理解していない場合は“*Is there anyone who changed your life?*” “*Any artist? Friend?*”など生徒の知っている英語に言い換えます。ペアで意見交換したら、教師は生徒たちから聞こえてきた意見を楽しみながら拾って、クラス全体に伝えます。生徒の話をもっと聞きたいから“*Let me share.*” “*Tell me more.*”という言葉が生まれ、ペア活動がクラス全体の活動へと発展します。

### TAKE A STEP FORWARD!

英語学習のゴールは、学習者の生徒それぞれが設定すればよいと思います。資格試験取得でも、小テストで目標達成でもよいです。自信は次への挑戦につながります。

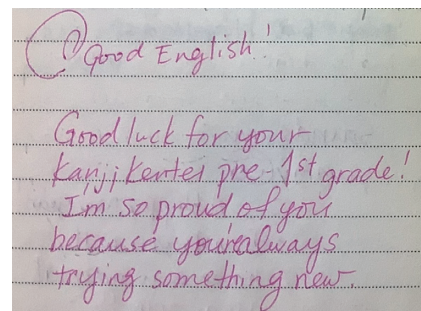
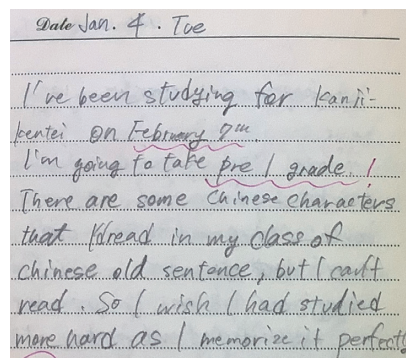


#### ◆ Profile

##### 根立 望

新潟県公立高校に勤務して26年現職。2012年に公開した英語授業で、「生徒の言語活動が16秒しかなかった」と指摘されたことをきっかけに一念発起し、今現在も授業改善に取り組んでいる。2017年度第67回全国英語教育研究団体連合会新潟大会 授業実演者。

もっとやりたい生徒向けに、英語学習の方法を紹介してはいかがでしょうか。例えば、書くことが好きなら、英語日記などを授業外でも続けるように促します。以前教えた生徒に、英語日記を提出する生徒がいました。生徒は毎日ではなく好きな時に日記を持ってきて、私は日記を読んだ感想を英語で書きます。コメントが難しいときは、英語の格言を書いて励ました。1か月続いたら、何冊かの洋書から、好きなものを1冊プレゼントしました。卒業まで続けたその生徒は、夢だった英語で接客する仕事をしながら元気に頑張っています。



英語コミュニケーション能力を磨くことで得られるものは生涯の宝になります。言語活動で生徒の自信を育む英語授業に、校種は関係ありません。「どんな発問をどんな英語で聞いたら、生徒はいきいきと英語で発話をしてくれるだろう?」と考えながら、また今日も教室に行く準備をしたいと思います。

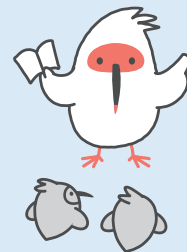
引用文献

文部科学省 (2020) 中学3年英語振り返り教材

[https://www.mext.go.jp/content/20201105-mxt\\_kyoiku01-000010656\\_3.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20201105-mxt_kyoiku01-000010656_3.pdf)

# 「一期一会」の英語

## ～高校生へのアンケートとそこからみえる “English for communication” への期待～



新潟県立新潟高等学校 小林 直人

おもしろい授業だけで力がつくのか。もしつくとすれば、それは一体どんな授業でしょうか。私自身疑問に抱いていたことに解決の糸口をくれたのは、今年度新潟高校の生徒に実施したアンケート結果でした。昨年度まで務めた中高一貫校での取り組みも含めて、なぜ英語を勉強するのか。そしてその先にあるものとは何かについてまとめました。

### 1. アンケートからみる「英語力がついた」活動

今年、本校の高校3年生120人以上からアンケートをとりました。「高校3年生の受験期になった今、中学校時代のどのような活動が生きていると感じているのか」は、中学校の先生方も興味深いのではないだろうか、と思い共有します。

本校生徒は出身中学校が多様であるために、さまざまな回答が得られるのだろうと期待していました。しかし実際には、多くの生徒が「力がついた」と回答した活動は共通していました。

Q: 中学校の英語の授業で印象に残っていること、あの活動で力がついたな～というものを教えてください。(自由記述)

- ① 音読活動
- ② ALTによる授業
- ③ 洋楽・洋画

上の1～3は回答の多いカテゴリー順に並べたものですが、特に1位の音読活動は抜きん出ており、「本文をそのまま今でも覚えている」という生徒も多くいました。

また、ALTの授業で「力がついた」とする生徒も多くいました。英語がコミュニケーションのツールであると体感できたことが主な理由だと考えられます。

洋画や洋楽といったエンターテインメントを通じて英語に触れさせることは、教科書だけでは教えられる英語の楽しさやカッコよさを伝えることにもなります。中学校の先生方も、これらの活動を今やっ  
ていらっしやるのであれば、自信を持って続けて下さい。

かくいう私も、中学生の時や高校生のとき、音読は好きな活動の一つでした。中学生の時の英語授業で、登場人物の一人が足を怪我して“*It's killing me!*”と痛さを表している会話文を臨場感たっぷりに音読して先生に褒められたことが、うれしくてうれしくてたまらなかったことを今でも覚えています。

アンケートの中には「スタンプラリー方式で課題をクリアしていく方法が良かった」や「班対抗クイズ大会が印象に残っている」などという回答も多くありました。中学校の先生方が普通の授業から様々な工夫を凝らしていること、そしてそのことによって英語学習のモチベーションが高まり、結果的に英語力がついた、と考えている生徒が多いことが分かりました。

### 2. 一貫して育てたいライティングの力

前任校は中等教育学校(中高一貫校)で、中学校1年生から高校3年生までを教える機会に恵まれました。中学生を教えるのは初めてでしたが、活発な生徒に恵まれ、毎時間とても楽しく過ごすことができました。

あるとき、中学校の検定教科書を眺めていて、このようなものを見つけました。

「ドラえものの道具が使えるとしたら何がしたいかを考えて、ノートに書きましょう。」

え?これって高校で仮定法を教えるときによく出てくる活動では?と深く驚きました。「いつの間に仮定法を中学校で?」という不勉強な私は置いておいて、自分がこれまで、授業中のライティング活動で行ってきたようなことで、実は既に中学校でやっているということもあるのではないか、と感じました。

高校の教科書では、仮定法のライティング活動としてどのようなテーマが挙げられているのか、いくつかの新課程の検定教科書を見てみました。「もしもって時間があつたらできることについて、自分自身の考えを書いてみよう」や“Describe what you wish about the present and the past.”のような、より論理的で自由度の高いものとなっていました。

中学校と高校の教科書における「まとまりのある英作文の書き方」を見比べると、出版社によって若干の表現の違いはあっても「導入」・「展開」・「まとめ」の論理展開を意識すると文章がわかりやすくなる、ということが書かれている点で一致していました。では、高校で中学校の学習内容を発展させるにはどのような工夫をすると良いのでしょうか。

私はまとまりのある英作文を書いてもらうときには「“OREO (AREA)”を意識して書きましょう。」と話します。これは、Opinion→Reason→Example / Experience / Evidence→Opinionの順で書く、ということです。(AREAの場合、AはAssertion)。これにより、Opinionが同じでも、Eのところ個性が出て、他の生徒と比較するおもしろさが増します。OREREOやOREREREOなどと真ん中を増やせば、より長い英文を書くこともできるようになります。

とはいえ、中学校の先生方がさまざまな工夫を凝らしてアウトプット活動を行っていることも知っています。小学校で英語を音声中心でやっているところに「文字」を入れる中学校の先生方の苦勞があつてこそ、高校での指導があります。本当に感謝しかありません。高校でも、生徒には本当に伝えたいことを伝えるために、型にはまりすぎず、英語を楽しく学んでほしいと考えます。

### 3. 心が動く機会を作る

私はこれまで勤務した学校で、テレビ電話による交流をオーストラリア、ドイツ、アメリカ、フィンランド、

韓国と行ってきました。私が学生時代に留学していて知り合った友人を介して繋がったものもあれば、留学中の卒業生から連絡があつたこともありました。いずれにしても「一期一会」という人のつながりの素晴らしさを強く感じました。

オーストラリアやアメリカのような、英語が母国語という国との交流ももちろん刺激的ではありましたが、フィンランドや韓国との交流の時には、生徒たちの目が一段と輝いていたように見えました。

フィンランドとの交流の際、生徒の名前を音だけ聞いて、その音に合う漢字をあてて書道の上手い生徒がリアルタイムで半紙に書きました。その半紙をスキャンしてPDFで送ってあげたときには、フィンランドの生徒ははととも喜んでくれました。

韓国とは時差も少なく、私の友人が現地で英語の教員をしていたという偶然も重なり、お互いの昼休みにテレビ電話をつないで、自由にやりとりできる部屋を作りました。毎日約30分間つなぐのを5日間連続で行いました。生徒は私の期待をはるかに超えて楽しみ「またやりたいです!」という声が必ず聞かれたため、年に数回行いました。授業中に学年単位で行つたこともありました。



今どきの生徒は、すぐにSNSでつながります。交流の終盤には、どちらからともなくアカウント交換が始まります。実は、これも私が良いと思うことの一つです。私が留学中に会つた人と、こうして今も繋がりがあつるように、生徒たちもまた、テレビ電話を通して会つた人と、今度はどちらかの国で、対面で会つてほしいです。共通のコミュニケーションツールは英語です。



#### ◆ Profile

#### 小林 直人

1987年長岡市寺泊生まれ。高校時代は野球部。大学在学時にアメリカの大学へ長期交換留学。新潟県高校教員13年目。大谷翔平が大好き。

先生と生徒のための

# Fun with ENGLISH in 新潟 Vol.2

小中連携を取り上げたFun with ENGLISH in 新潟 Vol.1は右側のQRコードより  
ご覧頂けます。



本 社 〒543-0052  
東京支社 〒113-0023  
北海道支社 〒060-0062  
東海支社 〒460-0002  
広島支社 〒732-0052  
九州支社 〒810-0022

大阪市天王寺区大道4丁目3番25号  
東京都文京区向丘2丁目3番10号  
札幌市中央区南二条西9丁目1番2号サンケン札幌ビル1階  
名古屋市中区丸の内1丁目15番20号ie丸の内ビルディング1階  
広島市東区光町1丁目7番11号 広島CDビル5F  
福岡市中央区薬院1丁目5番6号 ハイヒルズビル5F

Tel 06-6779-1531  
Tel 03-3814-2151  
Tel 011-271-2022  
Tel 052-231-0125  
Tel 082-261-7246  
Tel 092-725-6677

<https://www.shinko-keirin.co.jp/>

中学校英語・高等学校英語 教授用資料

2023年12月